

C-42 和裁に於ける採寸方法についての一考察 (第5報)

東京家政大学政 〇高月智志子 山根祥枝

目的 前回に引続きゆき丈寸法設定に影響を及ぼすと思われる袖口、袖付、衿肩明のあけ方の違いによる影響について検討することを目的として、本実験を行なった。

方法 大学生10名を被験者とし、ゆき丈寸法に關係があると思われる部位の人体計測を行なうとともに、着装実験を行ない、実験衣の条件が異なることにより生ずるゆき丈の変化を測定した。実験衣の条件は、①袖口、袖付を19cmより1cm間隔で大きくし、衿肩明は8.5cm、くりは3cm、衿肩明のあけ方は、くりはしを切り取る方法。②衿肩明のあけ方を水平にあけ、くりはしは肩山を後ろにずらしてつける方法、他の寸法は①と同じ。③衿肩明寸法10cmで他の条件は①と同じ。

結果 袖口寸法の相異による変化は、袖口が大きくなると、ゆき丈は長くなる83%、短くなる26%、変化は11.1%であった。袖付寸法の異なる場合では、袖付が大きくなると短くなる33.8%、長くなる16.5%、変化は49.7% 衿肩明寸法の相異による変化は、衿肩明が大きくなると、短くなる42%、長くなる27.4%、変化は30.6%であった。衿肩明のあけ方の相異による変化は水平にあけた場合の方が長くなる34.3%、短くなる25.6%、変化は26.1%であった。条件の相異による生じた差については、体格との相関は認められなかったが、この点については、今後の研究にまわりたいと思う。